

ニッポン ドクター和の 臨終図巻



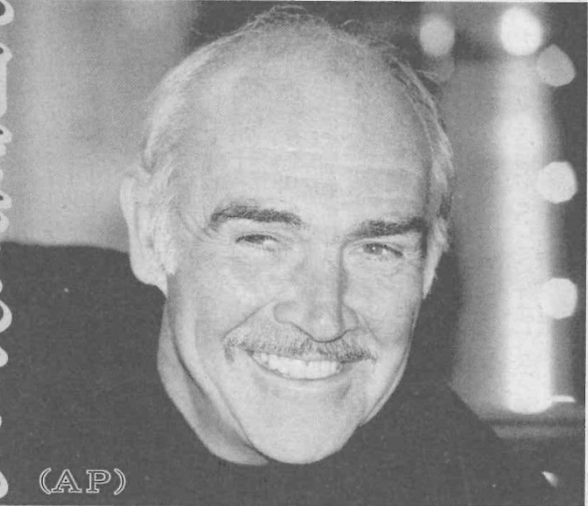
半世紀以上も続くスパイ映画の傑作シリーズ『007』。ジョージ・レーゼンビー(2代目)、ロジャー・ムーア(3代目)、ティモシー・ダルトン(4代目)、ピアース・ブロスナン(5代目)、ダニエル・クレイグ(6代目)。どの俳優も痺れるほどカッコいいですが、私の世代にとつてのジェームズ・ボンドといえば、やはり初代のこの人なのです。

日本の中青年たちが一度は胸ときめかせた元祖007に敬意を表し、この連載初の海外スターの訃報を取り上げます。イギリス・スコットランド出身の映画俳優、ショーン・コネリーさんが1月30日にバハマの自宅で家族に見守られながら亡くなりました。享年90。

スクリーンに登場したのは、

180 俳優 ショーン・コネリー

認知症だ。だからどうした？



(AP)

長尾和宏(ながおかずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

2003年の『リーグ・オブ・レジェンド』という作品が最後で、06年には引退宣言をしました。海外メディアの報道によると、数年前から認知症だったとのこと。

「認知症が重荷になって、この数年は彼自身をつましく表現することができませんでした。彼の最後の願いは、穏やかに去っていくこと。少なくとも眠っている間に静かに息を引き取ったので、彼が望んでいた通りになりました」と91歳の夫人がコメントを発表しています。

これを受けて、「あのショーン・コネリーは認知症だった！」と報道されています。しかし御年90歳。ジェームズ・ボンドだって、そりゃ認知症になって当たり前前の年齢ですよ。

しかし、あれから四半世紀以上経過し、超高齢化社会がやってきた現在でも、残念ながら、認知症の人たちへの偏見や差別は少なからずあります。もしもショーン・コネリーが、「私は認知症だ。だからどうした？」とあのニヒルな表情で発信してくれていたなら、何かが変わっていたかもしれません。

現在、世界には5000万人の認知症の人がいて、30年後には1億3000万人に上るとか。今こそ「認知症大国」といわれる日本が率先し偏見をなくそうと声をあげていくべきです。認知症で二枚目、認知症でハードボイルド…そういうお爺ちゃんが、筆者の地元・尼崎にはたくさん暮らしています。

しかし、洋の東西を問わず、スターたるもの、この病気を隠したいという思いはまだまだあるようで、認知症で亡くなったという著名人の報道はあまり聞かえてきません。アメリカ